

# 組織部報告

組織成績表 (自昭和五年八月)(×印ハ新設組合)

組 合 名	昭和五年	昭和六年	増 減	増減 現狀
東京聯合會	15,250	17,173	○	1,923
東京鐵工組合	3,742	4,029	○	287
日本縫工組合	509	509	—	—
出版印刷労働組合	211	545	○	334
中央合同労働組合	2,205	2,487	○	282
東京革工組合	440	440	—	—
東京水道同志會	400	120	△	280
紡織労働組合	4,007	4,657	○	650
運輸労働組合	1,130	850	△	280
選友同志會	2,368	2,577	○	209
八王子労働組合	45	45	—	—
東京自動車同志會	193	593	○	400
×中央硝子工組合		321	○	321
神奈川聯合會	5,203	6,587	○	1,378
神奈川鐵工組合	1,180	1,633	○	453
セメント労働 (川崎)	280	362	○	82
神奈川製材労働組合	296	170	△	26
神奈川電氣労働組合	190	378	○	188
神奈川石油労働組合	374	374	—	—
製糖労働 (川崎)	1,058	1,002	△	56
染色労働組合	120	197	○	77
神奈川合同労働組合	445	522	○	77
紡織醸造 (各組合に重複)	1,260	1,943	○	683
地方	3,536	2,919	△	617
關東釀造労働組合	2,229	1,712	△	517
埼玉労働組合	130	130	—	—

昭和六年八月末現在の加盟組合数は廿八、總支部數二百一支部、組合員數二萬四千七百三十名である。これを前年度に比すれば、別表の如く、約二千名の増加を示した。水道同志會、運輸労働組合、神奈川製材労働組合、關東釀造労働組合が組合員の減少を見たる以外は、夫々組合の組織を擴大した。然し乍ら、不況深刻化の爲、工場閉鎖、事業縮少の爲に解雇せらるゝ者續出し、各加盟組合を通じて約三千名に上る。されば、本年に於ける新組織數は、約五千名であつて、昨年の組織數に比して、非常な好成績を示した。

本年新に成立せる組合は、中央硝子工組合である中央合同労働組合の硝子工支部と新に組織された支部と合し、獨立したもので、順調な發達を續けつゝある。

本年解消したる組合は、岩手合同労働組合で、自然消滅したるものである。

最近の傾向としては、喜ぶべきことは組合員の安定した事である。従來、一方に加入するものあり、一方に脱退するものあり、組合員は常に流動して居たのであるが、最近

は、工場閉鎖、解雇等に依る組合員の止むを得ざる脱退以外には、殆んど組合員は安定した。これは、我労働組合の基礎が着々健實化しつゝある證である。この安定の上にのみ、健實なる労働組合の方針が確立し、將來の發展が約束されるのである。

組織運動の進展しつゝあるは、依然として中小工場に多い。然し乍ら、東京横濱間の大工場を中心として、組合の成立せるもの逐年多きを加へ、組合は未だ成立せざるも、少數の組合員の存在せざるものなき程になりつゝあることは近き將來に於ける大成を約束するものである。

我組合の組織運動の進展に於て、注目すべきは、左翼及中間派との競合である。これは近來頗る増加したことであるが、これに就いては、我組合の實力と、労働階級の利害を眞に忠實に代表して居ると云ふ實踐に依つて、労働階級を我組合に獲得しなければならぬ。

さきに總同盟中央委員會は十萬人突破運動を決議した。來るべき一年は、これに向つて勇往邁進しなければならぬ。その爲に先づ、組合の宣傳と組織を合理化さればならぬ。